



医療  
ホット  
ライン

内科

# 日本人に多く、進行が速い 『レビー小体型認知症』とは



西村内科脳神経外科病院

吉本 幸生 院長

認知機能の低下+2つ当てはまったら  
「レビー小体型認知症」の可能性大

## ①症状の変動

ははっきりしている時とボ  
ーっとしている時がある

## ②幻視

実際にそこにはないものが  
見えたり、いない人が見  
えることがある

## ③運動障害

身体を動かしにくい、手  
足がふるえる、歩きづら  
いといった症状がある

## ④睡眠の異常

睡眠時に寝言を言ったり、  
異常な行動がある

認知症と言っても、さまざまな種類があることを知っていますか？ 中でも、最近日本人にも多いことが分かり注目されている「レビー小体型認知症」について、詳しい話を吉本院長に伺いました。

——レビー小体型認知症はアルツハイマー型認知症の次に多いということですが…。

吉本 はい。認知症の約半分を占めるのがアルツハイマー型認知症で、その次がレビー小体型認知症です。運動障害を伴い、進行が速いのも特徴。高齢者の場合、約半年から

1年で進行し、数年で寝たきりになることも。——それは怖いですね。レビー小体型認知症かどうか、見分ける方法は？

吉本 認知機能の低下のほか、左下表のような4つの特徴のうち2つ当てはまればレビー小体型認知症の可能性がかなり

高いです。

——原因は？ 何か予防策はありますか？

吉本 一般的には脳内での特殊なたんぱく質(レビー小体の蓄積)が原因とされていますが、詳細は未だ不明な点もあります。予防は難しいのが現状です。ただし、飲み薬で進行を遅らせることが可能なので、予防も含めた進行抑制のためには早期発見が大切です。レビー小体型認知症患者は、脳のアセチルコリンという物質の低下が関与しているため、これを増加させる治療を行うと認知機能低下の進行抑制が期待できます。

——それでは、早期発見のためには何をしたらいいですか？

吉本 まずは医療機関への早期受診が大切です。最近では脳のMRI検査(MSRAD)をすることでアルツハイマー型認知症かレビー小体型認知症かの指標とすることもできます。「MSRAD」は脳の萎縮を測定し数値化します。その部位別の萎縮度を評価してアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症の診断を補助します。

——家族や周囲の人ができることは？

吉本 「もしかしたら認知症？」と感じたら、「歳だから仕方ない」と決めつけず、専門医への受診と検査を勧めましょう。認知症は早期なら進行を遅らせることができる疾患です。また、認知症の症状とそっくりで、正常圧水頭症、脳腫瘍、慢性硬膜下血腫など、手術で治る病気もあるので、まずはMRI検査を受けることが大事です。